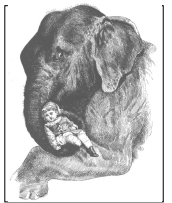


奇々怪々新聞



癡狂院に亡霊現る

陸の孤島と化した「房先癡狂院」の怪



宇宙人が幽閉されている旧陸軍駐屯地。これを撮影した後カメラマンは追い出された。

我が国の旧陸軍駐屯地において、宇宙人を幽閉しているという目算

陸軍が宇宙人を幽閉か

が強まっている。これは当初、外国人記者が告発したもので、NASAから陸軍への問い合わせはあるものの、NASAによれば「ゼロ回答」との事だった。陸軍は、未だ「宇宙人を幽閉している事実はない」としているが、旧陸軍駐屯地付近で、UFOと陸軍の小競り合いが生じており、近くの住職による停戦の仲裁が行われているが、事態は不透明だ。

結界破れる

4月6日未明、幻想県房先市にある私立病院「房先癡狂院」にある、道祖神の結界が破れ、亡霊が現れた。当初は、患者の悪戯かと思われていたが、亡霊がカルテを

咒禁生、百万人態勢で包囲

書き換える、作業療法に参加しようとする等の被害が発生。院長の体に憑依して苛烈な破壊行為を始めたため、県内の咒禁生、百万人が動員され、折伏にあたっている。4月7日の深夜の時点では、膠着状態にあり、咒禁生も癡狂院に近付けず、遠くから包囲を続けている。幻想県咒禁生協会会長、島村正蔵氏によると、「これは大変な茶番であり、この程度の亡霊に対して

「射殺やむなし」か

て動員する咒禁生が多すぎる。彼らはパニック状態になっている」と苦言。現場の咒禁博士、杉原浩一氏は、「咒禁生とは呼べぬ鳥台の衆が大挙している。無意味なお祭り騒ぎだ」と疑念を呈する。亡霊が専門の大学教授、漆原肇氏は、「亡霊が大きな力を持っている可能性がある。狂った院長を射殺する以外に方策はない」と語る。

靈感商法に注意!

弊誌関係者を名乗る靈感商法が、巷で流行している。幻想県警は、昨年度、違法な靈感商法を数百件検挙した。手口は極めて悪質で悪辣であり、数千円円の被害に遭ったケースもある。対策として、弊誌謹製のお守り、お札を買うべきだ。詳しくは弊誌ホームページを。



霊言総論

昨今の世相は、精神的世界にあまりにも傾斜し過ぎて、物質文明を軽視していいのだろうか？IBMの世界一のサーバーも停止し、霊界通信がその責を担う事になった事は記憶に新しい。

自称霊能者、自称霊媒師が世間には溢れ返ってしまい、現代においては科学者こそがインチキだと言われるような時代となった。

弊誌の立場は、あくまで科学と霊界は並立するというものだ。あまりにも精神的世界を偏重する世の中となってしまうとは、片手落ちと言わざるを得ないだろう。

そんな中で、明るいニュースがある。つい先日、私の部下の奥方が、実用新案特許を取得した。「空オーケストラ」というもので、音楽のB.G.Mを機械で演奏させて、市井の歌い手が歌を歌うというものだ。「カラオケ」と略され、一部で人気が高まっているらしい。歌、それは、人の心に火を点けるものだ。小生も、そろそろ野焼きの季節で心が弾むのである。火付け強盗が流行しないよう、野焼きにも力を入れない小生である。